

# 廣福寺だより

8号

## 鐘楼「昭和の再建」工事竣工

五月一日起工の当山鐘楼再建工事は契約どおり九月十五日めでたく竣工し、九月二十二日落慶法要を厳修することができました。門信徒はじめ広く有縁の方々の御懇念を結集して「昭和の再建」の大

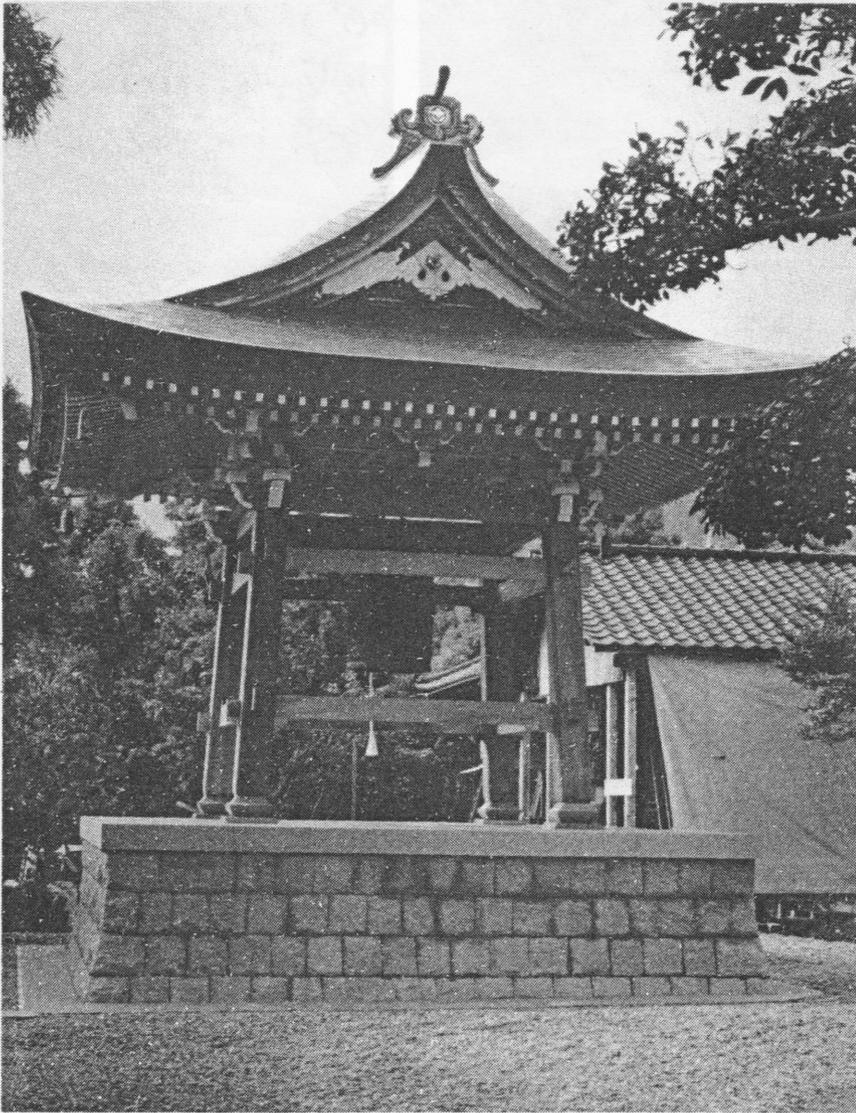
業が完うされました。正徳三年の鐘楼建立以来実に二百七十一年ぶり、遠く宿縁に想いをいたし感激と御同慶にたえません。

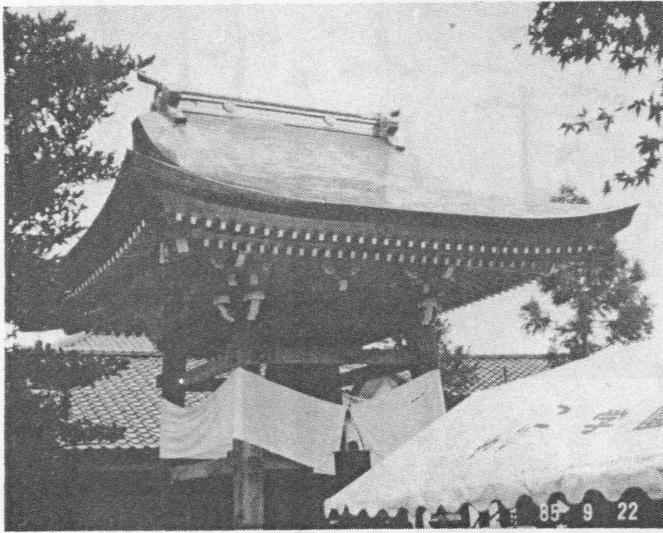
落慶法要には御法中、工事関係者はじめ門信徒の方々二百数十名が参集され、輪奐の美を誇る新鐘楼から響きわたる如来招喚の大音

に耳を傾け勝縁に遇ったよろこびを分かち合いました。

前号に紹介の工事関係者に塗装 武石準次 左官 山崎正平の両氏を追記させていただきました。法要に参詣された方々の御要望もあり近く鐘楼の銘を刻むことになりました。報恩講までにはでき上がる予定であります。

大みそかには恒例の除夜の鐘をつきます。老若を問わずどなたでもお気軽におつき下さるよう。上の竣工記念写真御希望の方は寺までお申し出下さい。(キヤビネ判、柳田写真館撮影、一枚四百円)





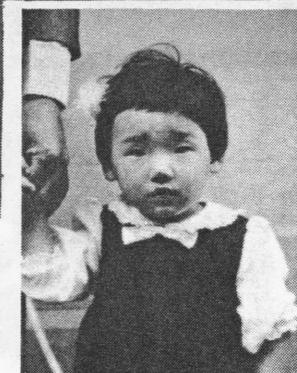
# 輪奐の美を誇る 新鐘楼の威容

▶ 朝来の雨もあがり、おごそかに新鐘楼の前で落慶法要の勤行



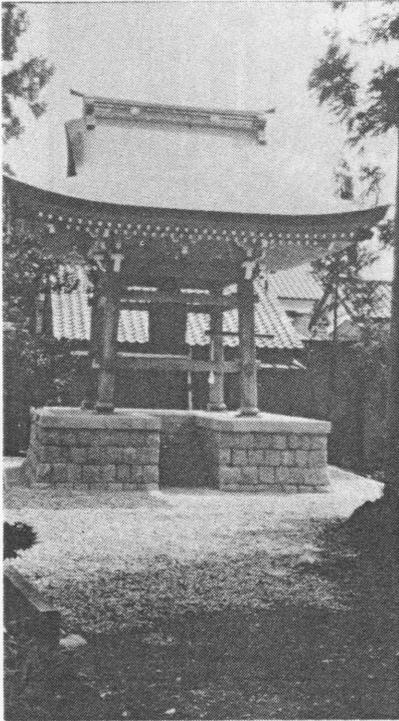
▲ 除幕の一瞬  
期せずして万雷の拍手

▼ ほとけさまと御縁を結んだ隼野恵理ちゃんと堀内侑くん

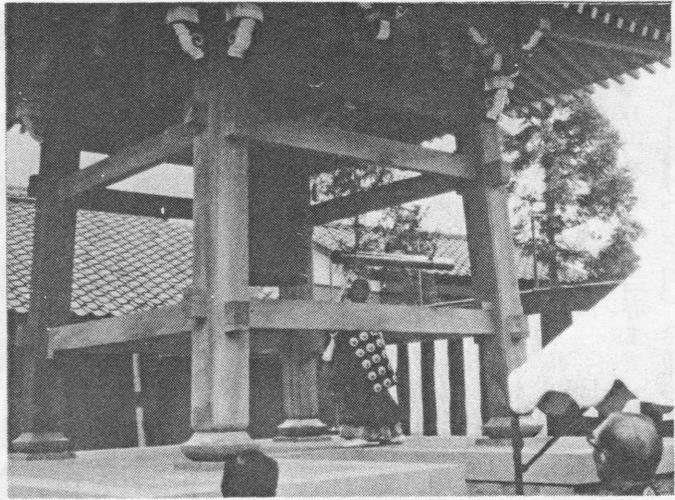


（対面）  
（対面）

▶ 当山住職、初の鳴鐘



▲ 西側からみた新鐘楼



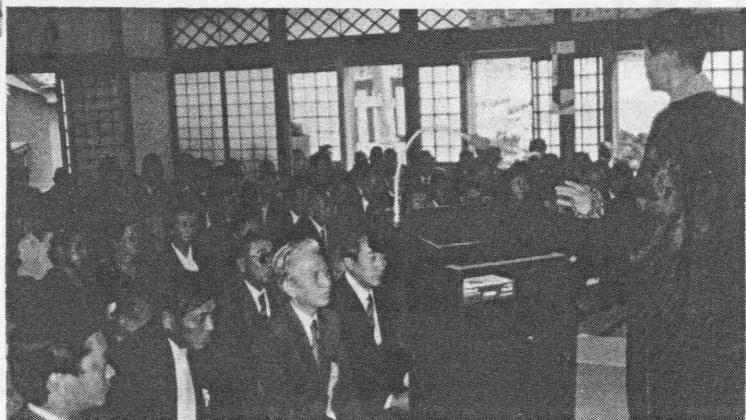
如来招喚の大音  
十方に響きわたる

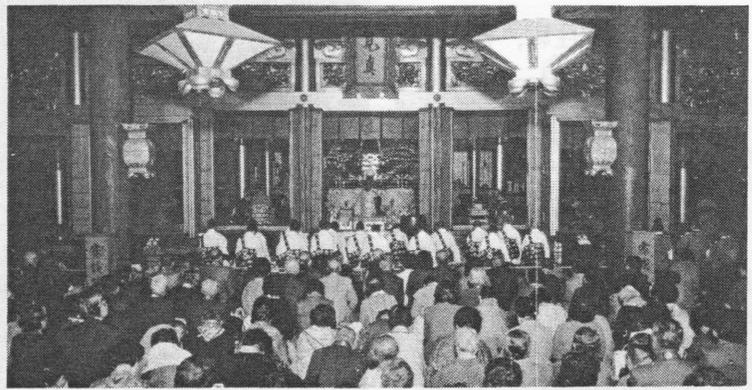


▲ 高齢者代表で鳴鐘の  
丸山幸平氏(満89歳)



▲ 満堂の参詣者勝縁を  
よろこび法話に耳を  
傾ける





### 本山御正忌参拝の旅

参加申し込みは11月10日まで

11月26～27日 旅費概算5万円

しました。往復とも国鉄を利用し、26日は弥彦午前7時36分発、京都到着後、御本廟参拝（納骨）旅館泊、27日は半日市内観光、本山御正忌参拝、本山泊、28日はおあさじ参拝、（おかみそり）、弥彦午後7時42分着の予定です。参加御希望の方は十一月十日までに申込み一万円を添えて当寺まで。納骨（二万円）、おかみそり（七千円）希望の有無も必ず十日までに御連絡下さい。事前の手続きが必

要となります。年に一度は本山参りと申します。お誘い合わせて御参加下さい。

#### 〈御上納ありがとうございます〉

#### 鐘楼勸金

一金 壹拾万円

麓二区 山岸 弥七

一金 七万円

麓二区 武石多右エ門

（目標以上の上納者）

#### 懇 志

一金 五万円

見附 小柳 勇

一金 参万円

東京 松宮 千代

一金 貳万円

横須賀 柄沢 勇

一金 壹万五千元

村山 古川 陽平

一金 壹万円

麓二区 小林 アキ

吉田 竹野 茂  
村山 五野上作左エ門  
五野上孫左エ門  
大倉 時夫  
川上不二夫

弥彦 白根 屋  
小林 一典

一金 五千元  
吉田 竹野 正雄

一金 参千元  
村山 加藤 茂助  
丸山 義晴

若井又右エ門  
磯部六左エ門  
桜井 修

一金 貳千元  
村山 青木 市郎  
治田辰三郎

清水与五右エ門

観音寺 森田 一美

#### 〔短歌〕

「覆水盆に返らず」の諺を復誦しつつ汝過去  
悔ゆ  
一つ灯を消せば忽ち闇となる一人居の部屋倍  
の静寂  
落蟬の骸を拾ひ林道を歩めばかなし秋の月呀

#### 11月7日・8日 報恩講の御案内

7日 午前10時

御布教

正 午

午後7時半

8日 午前10時

御布教

正 午

おつとめ 二席  
おとき おとき

◎御布教 寺泊 聖徳寺 窪沢泰忍師  
皆様お誘い合わせてお参り下さい。

◎おときの裏方 寺の行事のたゞに奉仕される勝手組の方々、本当に御苦労さまです。（写真）

◎おとき用みそ汁の手桶、随分と手間のかかるタガの修理を観音寺、武石与作さんから御寄進いただきました。

合掌いたします。

